道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

坂城町のライダー松本さんと40年ぶりに念願のキャンプ。

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

数年前から流行っているグランピング（グラマラス&キャンピング）。豪華なテントの中にベッド持ち込んだり、ホテル並みの食事や温泉付きなど、元はサファリの発想からきた大人の自然体験型キャンプ。２００５年に英国で造語が生まれてから、あれよあれよという間に世界で広まりました。一方、中高生の間では、２０１５年から連載された「ゆるキャン△」漫画が大ブーム。主人公が行く山梨県限のキャンプ場を巡る聖地巡礼には、以前住んでいたご近所の「ふもとっぱら」もありました。どちらも多くの人に自然を体験してもらえるということでは嬉しい波です。

日本一周ほぼ野宿旅から始まって、私のキャンプ歴も40年になりますが、心赴くままの一人旅なので、ベースは極めて「いい加減」。最近は車中泊が多かったのですが、つい先日、浅間オートレース発祥の地からも近い「北軽井沢アースマイルビレッジ」で開催されたライダーズミーティング「トライキャンプ」に参加し、キャンプ熱が再燃。そしてバイク熱も！ビックオフロードバイクでのオン&オフで講習会や全車両の試乗など「走り」を突き詰めてと思っていましたが、足の小指骨折完治間際だったので、バイクは断念（バギーだけ試乗）。愛車ジムニーに山盛りのキャンプ道具を積んで向かいましたが、帰り道は思い出いっぱいでニコニコでした。

主催は「トライアンフモーターサイクルズ ジャパン」ですが、トライアンフ以外のバイクや車でもOK、かつ例年内容が盛りだくさんなので、１２０名の定員があっという間に埋まったそうです。イギリス車だからというわけではありませんが、ウエルカム本格焙煎コーヒーや広報部自らが焼くホットドッグ（うまい！）、夕食のカレーやモーニングも豪華だし、マッサージやヨガも体験できて、目玉の景品もびっくりもん。バーなどワンコインや有料もありますが、これで参加費２０００円ぽっきり。ウロウロしているアンバサダーのゲストたちにも気軽に声かけられるキャンプって本当に楽しい～。やってくるライダーたちは全国からですが、ほとんどが大型車。女子が2割もいるのもトラ乗りの特徴かもしれません。かくいう私も９００CCのトライアンフに乗っております。

さて、キャンプ生活を観察すると、それはまさにグランピングとゆるキャンをミックスさせたライダーならではの色がありました。荷物が積みにくいので、荷台やロープをそれぞれ工夫（加工）し、最低限の荷物ながら、最大限の面白い「何か」を追求するところから始まります。最近人気の小さなバーベキューコンロは必須アイテム。かと思えば大所帯のグループにはバイクで運んだという新スト－ブ（！）も。太陽光の小さなランタンがあちこちで輝き、たとえお一人様でも焚き火はしっかり遂行。食事もみなさん手が込んでました。前室にバイクやグッズが入るテントも多かったのですが、１２０名がばらばらのメーカーというのもユニーク。ライダーは自分流をとても大事にしますが、バイクという共通項だけで誰とでも仲良くなれちゃうし、一人の時間も楽しく過ごせるという素敵な人種。やっぱりライダーはカッコいいなあ。

ちなみに私はグラマラスなキャンプ料理が得意な友達と、野性的な野宿会メンバーと同席したので、食事はホテル級、会話は笑いっぱなしで、今までの3本指に入る楽しさだったかも（一番はメキシコはバハ・カリフォルニア半島での遭難しかかったキャンプ。二番目はパリ・ダカールラリー中のコース変更後に野営したリビアでの焚き火）。つづく大切なのはマメで愉快な仲間ですね～。私はゲストだったのであちこち飛び回っていましたが、骨折のお陰でじ～っくり観察できたし、口だけのアドバイスもできました。次回はダカールラリーを連続完走した若手ラリースト、風間晋之介さんの指導でゲレンデ走行会走っちゃうよ！実はあれからずっとビックバイクで未舗装路を走っている夢を見ています。やっぱり私は走ってなんぼのDNAなのかも～♪

愛車を眺めながら仲間と語り合う至福の時間。これぞグラマラス！

クッキングと林道ラン。アウトドア好きが集まって、話は尽きず。

２ヶ月ぶりに乗ったのは、KYMCO（キムコ）の150ccATV。楽しかった～♪

「今だから言えるお宝写真」を持ち寄ったゲストトークは、終始大爆笑。

晴天の中、120名それぞれの思い出作りできたかな。また来年逢おうね！

九州の散歩道

明治維新150年「西郷どんの道」

フリージャーナリスト　湯浅玲子

今年のNHK大河ドラマ「西郷どん」で取り上げられた鹿児島出身の西郷隆盛。激動の幕末から明治維新を生きた人物として全国的に高い知名度を誇ります。地元の鹿児島では、大河ドラマの放送に合わせて「西郷どん大河ドラマ館」がオープンするなど盛り上がりを見せています。

各地に足跡を残した西郷隆盛ですが、当然ながら生誕地の鹿児島にはゆかりの地がたくさんあります。とりわけ西郷が西南戦争で新政府軍と戦い、最後を迎えた城山は有名です。城山のふもとには西郷隆盛の銅像が立っていますが、この銅像は鹿児島市出身で、渋谷の「忠犬ハチ公」の制作者として知られる安藤照が8年をかけて制作したもの。城山を背景にした高さ8メートルの堂々たる銅像は、巨漢だったという西郷隆盛を彷彿とさせます。

城山は鹿児島市街地の中心部に位置しており、展望台からは桜島や錦江湾、さらに天気のいい日には遠く霧島や指宿の開聞岳まで見晴らせる眺めのいい場所です。豊かな自然林が残り、美しい夜景が楽しめる城山は、現在では市民の憩いの場所となっています。

また西郷ゆかりの史跡がいくつも点在しています。西南戦争の際に薩軍の本営が置かれたドン広場、西郷が最後の5日間を過ごしたと伝わる洞窟、そして西郷隆盛終焉の地。さらに近くには西郷隆盛を祭った南洲神社や、西南戦争で戦死した人々が眠る南洲墓地もあります。

城山のふもとに立つ堂々たる西郷隆盛の銅像

展望台からは桜島や錦江湾も眺められる城山

波瀾万丈の生涯を送った西郷隆盛ですが、鹿児島の人らしい考え方の持ち主でした。座右の銘は「敬天愛人」。天を敬って、人を愛するという意味で、今でも経営者の方々が好んで使うことが多くあります。とりわけ九州や鹿児島の経営者には、この言葉を座右の銘や社是としている人が多く、著名なところでは鹿児島出身で京セラ名誉会長の稲盛和夫氏も経営の精神として大切にしています。

もともと薩摩藩には「郷中教育（ごじゅうきょういく）」という独特の教育システムがあり、地域の中で年齢の異なる者が集まって教育が行われていました。これが藩の結束や、人材育成に大きな成果を上げ、ひいては幕末の薩摩藩の活躍につながったのかもしれません。のちに西郷隆盛も鹿児島の士族のために私学校を創設しています。

今年は明治維新から150年の節目の年に当たり、鹿児島でも年間を通じてさまざまなイベントや展示などが行われています。西郷と同じく明治維新で活躍した鹿児島出身の大久保利通など、明治維新について学べる資料館をめぐるのも楽しいものです。

（写真提供：九州旅ネット）

ハッと思いました

「寒い寒い、暑い暑い、早くも夏日だ。」と忙しい年の前半でした。そして今は梅雨。ＩＴ機器・サービスの進化スピードについて行けずイライラしているのに、気候の大きな変動、早い変化に老体は何やらパニック・反乱を起こしているようでとても辛いご様子です。

スマハラ（スマートホンハラスメントア）、アプハラ（アプリハラスメントア）、ウエハラ（ウェザーハラスメントア）、どれもこれも私にはハラスメントぢめです。

そうは言っても、この時期の楽しみは紫陽花。寺や公園、山あいなど人気所も数々あります が、街なかにも、目がとまってしまう鮮やかな色の塊が結構あるようです。紫陽花は種類も多く、土や水の酸性度・アルカリ度に影響を受けるため、環境が目に見える植物としての興味もあります。

環境と言う言葉も、一時期に比べて世に出ることが少なくなって、かなり改善しているようです。

大型トラックやダンプから黒煙は出ていないし、多くのクルマはエンジン音も静かになってます。むしろ近づいてくる気配さえ気づかないくらい・・。

今、クルマはＥＶへとシフトされることが世のためのようですが）とか、ＥＶ車の特性やクルマの挙動をドライバーが理解して対応できるのか（ドライバーの年代に大きな幅があることが心配ですら黒煙は出ていないし、多応力など、総合的に考えていかなければ、歪が生まれてこれまでにない新しい問題が発生することは明らかだと思います。

小さな事かもしれませんが、ＥＶ車やＥＶバイクを使って、そっと近づくひったくりや窃盗が増えるのではとか、大雨で水をかぶった際に感電やショートはしないのか（しないと思いま）など。

些細なことが気になるお年頃なので、お許しください。

エネルギー問題から資源の問題、人間や社会構造の対